表Ⅰ・Ⅱ凡例

［凡例 1］（対象とする図書）

この表は尾張藩校および名古屋藩学校蔵書の復元を試みたものである。具体的には、**文庫概要「尾張藩「明倫堂」蔵書と愛知教育大学「明倫堂文庫」」**（以下「文庫概要」）５の１に示した次の 3 種類に該当する図書を漢籍と和書に分けて掲出する。

［A1：明倫堂蔵書目録に記載の図書］、［A2：「明倫堂図書」「明倫堂書庫記」の蔵書印または「筥名」が確認できる図書］、［B：名古屋藩学校の蔵書印が確認できる図書］。

［凡例 2］（漢籍と和書の区分）

日本人が漢籍に校注等を施したものは漢籍目録に、日本人の漢文著作（漢学）については和書目録に掲出した。また、表Ⅰおよび表Ⅱの間で図書の重複はない。

［凡例 3］（列：見出し項目の説明）

筥名

筥名の詳細は２(3)参照。（　）内は底本に無い。＊を付した筥名は現存本で確認済み。

筥名に関して次のような事例がある。『資治通鑑』は明倫堂目録に 5 部載り、3 部が本学現蔵でこれについては＊を付した。筥名「玄」「宇」の 2 部が確定できない。東京書籍館交付本 160 冊は現物比定ができておらず、もう 1 部 160 冊は所在不明である。したがって、東京書籍館交付本を「玄」、所在不明本を「宇」と表示したのは、便宜的な処置である。

〈底本〉書名

明倫堂蔵書目録「底本」に記された書名。

・「書名〔→　〕」の〔　〕内は、文庫概要の注記（異同注記は BCDE の一部及び漢籍は巻頭書名）である。

・「（書名）」は、部数の多い図書の内、払下げや所在不明の部数を表示するために列を新たに立てて表示したもの。

・★を冠した書名は底本に無く、他の目録によって補ったもの。

・■を冠した書名は目録に無く、本学蔵書・『取調簿』等によって補ったもの。

・「底本」書名と『取調簿』書名とに異同がある場合は、後者は「取調簿」欄に付記した。

・「東：」は東京書籍館交付書記載の書名。

・「二十一代集」など総称が採られている場合は、その総称に属する個々の書名を「…書名」と表示した。

〈底本〉冊数

★を冠した部数・冊数は、底本にない図書で他本の目録によった数値である。

B・C・D・E・F・H・I・G・底本・A

明倫堂蔵書目録に付した記号（詳細は２(2)）。当該目録に収録→有○、無×。

取調簿

3(2)参照。

所在

当該書の所蔵（移籍）先を示し、それぞれの行を色分けした。略称と色分けは次のとおりである。

1)「和」「漢」本学蔵→色づけなし（白色）

「東」東京書籍館へ交付（交付後の行方が確認できない図書も含む。4の4(2)参照)。（東）は、交付書未載であるが、国会図書館に現存（4の4(1)参照）→薄赤色

「蓬」蓬左文庫蔵→黄色

2)「払１●、払２◆、払３▲、払録のみ▼」は売り払われた図書。3(2)参照→灰色

3)「×」売払記録はないが、所在が確認できない図書→灰色

4)「他」は上記 2、3 の内、他機関に所蔵されていることが判明したもの。所在欄には「●→他」「×→他」のように表示した→薄緑色

番号

・所在「和」「漢」の図書は本学整理番号を表示する（現在、請求記号が付されていない未整理本が含まれているので、整理番号による)。

なお、「十三経註疏」のように、その構成図書の整理番号を表示する場合は、総称「十三経註疏」には番号（親番号）を表示しない。

・国立国会図書館・蓬左文庫は「請求記号(冊数)」を表示した。

・他機関蔵書については、「機関名(冊数)」を表示し、請求記号等の詳細は文庫概要の「４の５．他機関収蔵の明倫堂旧蔵書」に示した。

冊数

・本学蔵書「和」「漢」および蓬左文庫蔵本については、現在の冊数を示す。

・東京書籍館交付本（所在「東」）については、「交付書」（3(1)参照）に記された冊数を示す。「東」のうち、国会図書館に所在確認できるものの冊数は前述のように「番号」欄に付記した。紛らわしいが、「交付書」には「〇帙」とのみ表示されていたり、「交付書」の冊数と国会図書館現蔵の冊数に相違があるための処置である。

印

当該書に押された蔵書印（すべての蔵書印ではない)。略号は次のとおり。

・明図（明倫堂図書)、明記（明倫堂書庫記)、藩学（名古屋学校之印)、名学（名古屋学校)、弘（弘道館図書印)。

・△は「交付書」に載るが、該当書の確認が済んでおらず、本表の対象外の可能性もある図書。

[凡例 4]（現在所在不明図書の扱い）

館内備付の目録『愛知學藝大學附屬圖書館名古屋分館漢籍目録』(1965.3 刊行)および『愛知教育大学附属図書館所藏国書・和装本目録予稿』(1990.2.14 付，未刊行)には

印記が補記されている。また後者は冊数も記載がある。このいずれかに記録がある場合それを記載した。また、国書データベースに載る本学所蔵本の画像により、筥名が確認できる場合は筥名も記載した。

［凡例 5］（行：図書配列の説明）

漢籍はおおむね四庫分類によったが、細部にまでは及んでいない。

和書は五十音順によった。（　）内に「→」に続けて、国文学研究資料館・国書データベースの統一書名を表示した場合は、統一書名の読みによって配列した。

［凡例 6］（字体）

漢字は通行の字体によった。